

日時 令和5年11月8日(水)

午前10時00分～午前11時40分

場所 市民活動サポートセンター北ラウンジ

第4回

さいたま市市民活動推進委員会

会議録

1 開会

2 議題

(1) 令和5年度マッチングファンド一般助成事業の進捗状況について

(2) 市民活動及び協働の推進について

3 その他

4 閉会

さいたま市市民局市民生活部
市民協働推進課

出席者名簿

委員 (50音順)	阿部	成男	(市民活動団体の代表者)
	大木	洵人	(公募により募集した市民)
	大塚	恵利子	(市民活動団体の代表者)
	岡	志寿子	(公募により募集した市民)
	篠崎	正彦	(学識経験を有する者)
	鈴木	俊治	(学識経験を有する者)
	谷崎	美智子	(公募により募集した市民)
	濱中	真人	(大学又は事業者の代表者)
	久間	亜紀	(公募により募集した市民)
	平野	直	(市民活動団体の代表者)
	堀川	修平	(学識経験を有する者)
	山形	華子	(市民活動団体の代表者)
	事務局	浅見	有
稲村		嘉一	(市民協働推進課課長補佐兼係長)
高橋		隼	(市民協働推進課主事)
欠席者	渥美	翔	(公募により募集した市民)
	田中	亜弓	(公募により募集した市民)
	田中	心彩	(市民活動団体の代表者)
	平井	まゆみ	(大学又は事業者の代表者)
	藤枝	陽子	(市民活動団体の代表者)
	丸屋	美智代	(市職員)
	山口	恵美子	(市民活動団体の代表者)
	山本	和広	(市民活動団体の代表者)

1 開会

- 開会の挨拶
- 欠席の確認
- 資料の確認
- 委員自己紹介
- 議題の確認
- 傍聴の確認

2 議題

■議題1 令和5年度マッチングファンド一般助成事業の進捗状況について

○篠崎委員長

では、早速議題に移りたいと思います。

議題1、令和5年度マッチングファンド一般助成事業の進捗報告について、事務局から御説明をお願いします。

○事務局

《資料2について説明》

■議題2 市民活動及び協働の推進について

○篠崎委員長

続きまして、議題2、市民活動及び協働の推進についてということで、前回までの振り返りを少ししますと、前回、前々回と計2回のワークショップを行いました。今期の委員会に諮問された内容である、市民活動の担い手あるいは参加者の年代を広げていくというようなことについて、皆さんのお知恵を拝借しながら討議を行ってきました。

本日の委員会は、前2回のワークショップを踏まえて、皆さんのそれぞれの立場で意見を伺いたいと思っています。今回は小さなグループに分かれてというよりも、全体協議という形で、皆さんで意見交換をしていきたいと考えております。

今回、全体協議の場で御発言いただくテーマは、前回までのワークショップで意見がそれほど多くなかった点、或いは委員の皆さんが普段の活動の中で、実践または意識していることなどを伺って、意見交換できればと考えております。

事前にお配りしている資料の3と4に前回、前々回のワークショップのまとめが載っています。

今回の全体協議の進め方、手法について、事務局から御説明いただければと思っております。よろしく申し上げます。

○事務局

《資料3～5について説明》

○篠崎委員長

進め方、テーマについて、事務局から御説明がありましたが、御質問等はいかがでしょう。

それでは協議に移りたいと思います。協議というと堅苦しいですが、前回、前々回やった内容を元に、もう少しフリーな形で、皆さんに御意見を伺えればと思います。また、出た意見について、その他の委員の方からも重ねて御意見をいただければと思っております。ざっくばらんに、積極的な御発言をいただければと思います。

最初は、資料5のテーマの①、②ですね。運営スタッフの世代の幅を広げるために実践していること、意識していることというのを御経験の中からお話いただくか、或いは運営側として、イベントや事業に参加してもらう方々の世代の幅を広げる際に、どのような実践をされているか、意識をしているかということで、①、②のどちらでも結構ですが、実際やっている中でお話いただければと思っております。

これまでの委員会の中で伺っていて、活動の幅を広げているなどと思う委員の方が何名かいらっしゃるのでは、こちらから指名させていただければと思います。

最初に阿部さん、いかがでしょうか。

○阿部委員

今回は、自分が今やっていることを中心に、色々ディスカッションすることなので、比較的私にとってもやりやすいかなと思っております。

私の団体というのは、立ち上げるときにもいろいろ言われたんですけども、初めは県に申請を出したら、審査委員会みたいなものがあって、「手打ちそばの趣味の団体か」と、「好きでやっているような団体か」と、あんまり評判が良くなかったんですよ。

だけれども、ヒアリングみたいなものがあって、私の方でいろいろ説明して、「趣味の世界を文化活動にするのが目的」ということで、「単なる趣味で終わらせないことで、伝

「統食文化のそばの文化を引き継いでいこう」ということを色々お話したら、非常によく理解をしていただいて、まずそこから始まりました。

今日言われていることもいくつかあるんですけども、まず②の方については、幅広い世代に参加してもらうために実践または意識をしていることですが、そういう意味で言うと、うちの方はもともと対象が全部幅広いです。

それこそ、うちの方では、促進するための段位制度というものがあって、素人なりに目的を持ってやってもらっています。先月も大会をやったのですが、それは小学生から90代まで、老若男女誰もが参加できるということが対象なので、あまり悩んではいません。

その代わり、一遍にはなかなかできないので、例えば小学生だったら食育も兼ねて、親子そば打ち体験教室とかっていうのもいろんなところでやっています。

先月やったのは、陸上競技とかで引退した人たちが年齢別にマスターズってやっていますよね。そのような形で、もう死ぬまでそば打ちをしようということで、健康増進のためのものもやったりいろいろしています。

ですが、悩みの種は、ちょうど中間の人がなかなか集まりにくいので、それらの人をいかに引き込んでいくかというのが、今一番の悩みです。

いかに知ってもらうかという広報が一番大事だと思って、SNSやFacebookとかをやっているんですけど、なかなかダメで、毎回報道の方に声をかけています。

ただ、以前は珍しかったけど、最近は飽きられちゃっていて、有料だと偉い金がかかるので、無料の広報でやっているんですけども、幅広いという割には、いろいろ苦労があるという中で、今一番はお金がかからない広報の仕方をどうしようかというのが悩みの種ですね。

それから①の方ですが、これもどこの団体も多分悩みがあると思います。うちの方の事業の対象は、②の方で今話したんですけど、団体運営は、ある特定の人に役員とかをやってもらわなきゃならないんですけど、それが今一番の悩みで、特に私どもの方は、会員も役員も北海道から名古屋の方まで広がっているんですよ。

だから、年中気軽に集まるというわけにもいかないし、その人達にスタッフでやってもらおうというのもなかなか難しい。初めは、理事にいろいろやってもらったんだけど、なかなかもうやりきれなくて。うちの方は団体が553団体ぐらいあって、その所属団体も合わせると2,000人ぐらいいるんですけど、団体の長が理事になっているので、なかなか動けないですよ。

それで、3年前に考えたのは、その団体の方から動ける人を出してもらって、ただ、出してくれと言ってもなかなか動きません。理事の定数を増やすのは、あまり好ましくない

ということで、定款の役員ではないんだけど、執行役員という名前をつけました。やっぱり肩書があると人間は動くんだよね。

理事の半分ぐらいの人数の20人近くを任命して、私も1人で今までやってきたのはできないので、事業別にしてそこを作って今やっているところで、今2年目ですが、なかなかまだ動かなくて、結局やっぱり地道にみんなが何とか協力できる、自分の仕事に魅力が持てるようなことをいかにしようかということで一生懸命やっています。

どこの団体でも悩みが非常に多いんじゃないかということで、私も今日良いお話が聞けたらと思っています。

○篠崎委員長

貴重なお話をいただき、ありがとうございました。ベースとしたら、年代別のそばの会ということなんですが、それはもう最初からそういう年代別というのをターゲットにしてやろうということで始まったのでしょうか。

それともやっぱり参加人数が多くなってきたから、お話のあったように少し小分けに人を募集してみたのかというあたりをお聞きしたいです。

○阿部委員

もともと私たちが今目的としているのは、素晴らしい日本の食文化である手打ちそばの世界をいかに広げるかというのが最大の目的なんですね。その目的のための手段が、技能検定とかそば学検定とかをやっているんですね。

ですから、目的を達成するために、手段はいろいろ変わっても良いと思うんですけども、そういう意味でいくと、今言った世代別というのではなくて、昔から子供や言い方がおかしいかもしれないけれど、特に地方では、もう嫁さんと言ったら、そば打ちができないと嫁さんの資格が無いぐらいのところもあるわけですよ。

だから、地方では女性がそば打ちをするのは、当たり前みたいな地域もあるんですよ。それを子供が見ながら一緒にやったりするので、もう伝統的にそういう老若男女がやっているっていうのがあるものですから、あまり疑問を持たずにいて、それをいかに理解してもらって、多く広げるかということでもありますので、もともと世代間を広げようということよりも、当たりのことを何とかみんなに理解してもらおうということをやったものですから、そのところはあまり疑問には残っていないところです。

○篠崎委員長

あともう一つ、運営側の方で、すごく規模が大きいというところもあるので、羨ましいと思いつつ、大変なところもある中で、なかなか実際動ける人が少なくて、それは例えば、年齢的なものなのかとか、参加者の方では、真ん中の年代が少ないというお話があって、時間の都合とかでなかなか来れないということですが、運営する側の方でもそういう年代の偏りはあるのでしょうか。

○阿部委員

結局どこの団体でもそうだと思うんですけども、やっぱり、うんとやる気のある人間が何人かで最初は立ち上げるんですよ。だけど、それだけの認識を持った人が、常に後からついてくれば良いんですけども、なかなかついてこれないというか、家事、家庭をちょっと犠牲にしなきゃならないぐらいじゃないと良い仕事はできないんですよ。

それらを理解していただくために、いろんな形でイベントをやっている中で、この人は何かやりそうだという人を探すのが、私たちの仕事みたいなもので、いかに引き込むかが大事です。

ただ引き込むといっても、いろいろ前から問題があったのは、それこそ四六時中、その団体のために働く。そうすると今度は、家庭の奥さんとかから不満が出るんですよ。

それを解消するためにやったのが、その人に事務手当を払うことを考えました。たとえ安くても、少しそういうことでいくらか出れば、家庭の理解も得やすいついていうのが、いくつかやってみたらわかったんですね。

だからそういうことで、いかにその名譽的にやる気を起こさせるかということと、金銭的に何とか満足はしないかもしれないけど、少しでもそういうのがあれば、人が動くんじゃないかということをやっているんですけど、ただ、それをやり始めてから、大分財源的に問題がありまして、だから今度いかに変えるかになったんですよ。

だけどもおかげさまで、何とか今も出来ているんですけども、まだまだ足りないところです。そんなことで苦労したことは、いかにやってもらうか、その人の心の内だけでは、動かないというのをいかにみんなが理解するかということだと思います。

○篠崎委員長

最初は志で始めたけれど、志だけでは活動が継続していくのは大変というお話しでした。かなり身も心もと言ったら言い過ぎかもしれませんが、ささげるような活動をしている方もいると思いますが、なかなかすべての団体は、そうでもないだろうというところもあったりすると思います。

久間さんはお仕事をしながら里山クラブで活動されていて、その辺のいろんな両立の仕方みたいなどころについて、実際どうなっているのか、御自身のことでも良いし、NPOの方のお話の御紹介でも良いのでお願いできますか。

○久間委員

別件ですけど、オーガニックシティフェスにも出ますので、お気軽に遊びに来てください。

今朝、ペーパーを簡単に作ったので、説明したいと思います。

実は私たち今、①のスタッフの世代の幅を広げるのは、阿部さんがおっしゃったように、なかなか難しいです。参加目的は様々なんですよ。

私みたいにフルタイムで働いて、上曜日やと行けるぐらいの人と、平日も活動出来るって人といろいろいます。参加人数はまちまちなので、強制をしないで参加してもらえようにしたら良いかなと思ってまして、皆さんやりたい分野とか得意分野が違いますので、それに応じて参加できるような緩い雰囲気を作っていきたいと思っています。

私たちは、阿部さんのようにたくさんの団体を束ねているようなかんじではなくて、毎週10人とか、多くても20人ぐらいが集まるかんじです。雰囲気づくりで何かちょっと発言したくなるようなコミュニティづくりです。ランチタイムとかに声をかけて、今後どういうふうに運営していこうとか、難しい話だけでなく、いろんな話をします。

あと、朝晩声掛けをしながら、やっぱりそういった誰もがちょっとうまく発言できるような雰囲気づくりっていうのは、すごく心がけています。

やっぱり年齢に幅があると、若い人がちょっと発言しにくかったりとか、やっぱり男性の高齢の方は皆さん、私なんかもそうですけど、男性脳になっているんですよ。

ですから、女性の方たちがいろいろ細かくいろんなことを話していると、「面倒くさいな」なんて思ったりするんですけど、そういういろんな人が話せるっていう雰囲気というのはやっぱり大切にしないと、みんな辞めていってしまうような傾向があるかと思っています。

また、イベントや事業など幅広い世代に参加してもらうために、阿部さんもおっしゃったような、お試し参加みたいなものを機会としては設けています。

しかし、残る人ってそんなにたくさんいるわけではなくて、夏暑い時は卓取りをしなきゃいけないとかするので、そういった意味では、継続できる人がうまく残っていくと良いなと思っています。

ですので、そういうお試しの機会を設けるといいうのを幅広い世代に参加してもらうため

に実践していることです。

あと付け加えると、⑤のところにも関係すると思うのですが、お子さんの参加は活動が活性化するし、お子さんがすごく喜ぶんですね。

裸足で掛け回れるような環境ですし、なるべく小さい子供さんとかを連れた人達も参加してもらいたいです。しかし、私みたいに1回子育てが終わっちゃうとなかなか接点がありません。

そういう意味では、学童保育を運営している方を中間支援組織的にお願いして「じゃあ今度稲刈りあるから連れてきてよ」という感じで連れて来ていただくと、何十人も参加していただけます。

○篠崎委員長

今、お話を伺っていてすごく面白いなと思ったのは、運営する組織というか、それ自体も少し緩く活動しつつ、境界を緩くしていくということだったりとか、実際のイベント自体も自分たちだけで全部やるのではなくて、最後にお話しされた、学童と連携したりとか、他のところや人と関係を作って巻き込んでいくみたいなのは、すごく良いなと思いました。

今、すごく対照的な2つの団体のお話を伺いましたが、何か皆さんから少し御意見や御紹介などあればと思いますが、いかがでしょうか。2つの団体のもう少し細かいところを聞いてみたいというようなことでも結構ですがいかがでしょうか。

○事務局

傍聴の方が今1名いらしたので、許可よろしいですか。

○篠崎委員長

はい。許可いたします。

堀川さんとかは、先ほどの御紹介で、逆にかなりターゲットを絞込んだ活動をされているような印象ですが、自己紹介も兼ねて少し御紹介いただければと思います。

○堀川委員

私自身が関わっているのは、民間教育研究団体という組織におりまして、御存知の方もいらっしゃると思うのですが、基本的に現場の先生たちが中心となって、自分の専門性を高める学びをしたりする団体が複数ありまして、その中の一つの人間と性教育研究協議会

という、いわゆる性教育に関わる団体に所属をしています。

性教育というテーマ自体が幅広くて、例えば教員だけではなく、助産師、産婦人科医であったり、あと先ほどマッチングファンドの話にも出てきましたが、子供に関わる職種であったり、居場所づくりであったりとか、様々なところに関わるテーマですので、会員自体は、他の民間教育研究団体と比べて、幅広い職種の方が参加しているところです。

もう一つ私自身は、性教育に関わる団体だけではなく、日本の民間教育研究団体全体に関わる連絡会があるのですが、そこの代表者も務めておりまして、そこでよく出てくるのは、多分今回の話にもすごく重なる、若い人が参加しない問題というのが、各団体の課題として挙げられるところです。

今日の①と②に関して申し上げますと、比較的、私の所属をしている団体は、若い世代が多いです。それは他の団体と比べても多いんですけども、なぜかを考えたときに一つは、①に関してスタッフというか、いわゆる中核を担っている人たちというのが、ワークライフバランスと言っていいのかもしれませんが、様々な世代がいるので、適材適所というか相当そこを気にした仕事の分担をしているというところが、スタッフ自身が参加しやすい環境に繋がっているのかなと思っています。

②に関しては、非常に私たち自身も頭を悩ませているところでして、特にやっぱり若い世代がいないというところで、少しでも次のスタッフになっていただけるような参加者を集めようと思って、例えばユースに限定したイベントであったり、学習イベントとかをやったりもするのですが、参加した後にスタッフになってくれる方が少なく、やっぱりそこがすごく団体としての課題として議論をしている、議論を深めているところです。

学ぶ意欲があっても、自分たちで学ぶ場を作るといふふうに繋がらないという方たちが結構多くいるので、そういう方たちに対して、どういうふうに働きかけたら良いのかということをお話をお聞きしながら、ぜひ考えたいなと思っていたところです。

○篠崎委員長

すごく核心的なところのお話をしていただき、ありがとうございました。

前回、前々回のワークショップの中で、最初はやっぱり自分たちの興味とかそういうので始めるということで、それがだんだん広がって行って、市民活動になっていくという話があったかと思うんですね。

今の堀川さんの最後のお話しのところで、イベント的なことに参加する方が活動に興味があるんだと思います。

その方が現在の運営というか、そちら側にスライドしていかない。全員がスライドする

必要は、もちろん無いけれど、ある程度スライドしていかないと多分、団体としては維持出来ないということがあるということで、その歯車がうまくかみ合うと良いなと思って、前回とか前々回とかの皆さんのお話を伺っていました。

何か個別の事例でも良いんですけども、そういうイベントの参加者から運営側に入ってきたという方の例があれば、本当に個別の例で良いんですけど、お話いただければと思います。なかなか無いですかね。大木さんの団体はいかがでしょうか。

○大木委員

私の場合は、障害者系のものとスポーツ系の2つをやっているんですけど、スポーツ系の場合は、そのスポーツを体験してやってみた後に、その競技自体が楽しいから、団体運営という大げさかもしれないですけども、結構関わってくれる人が多いイメージがあるのかなと思っています。

○篠崎委員長

その時に何か特別なスキルとかそういうのは特に要求されないのでしょうか。

○大木委員

団体のカラーとかステージとかにもよると思うんですけども、野球とかですごくハイレベルでやりますとかだともちろん、スキルが必要になるかなとは思いますが、どちらかという、もう少し子供たちに参加してもらおうとか、初心者の方の体験会をやるのかという形であれば、御本人がまだ初心者だとしても、ある程度力がつけば、ルール説明とかは、覚えれば十分できることなので、人口としては窓口が広いのかなという印象は受けます。

○山形委員

自分の経験に照らしながら、みなさんのお話を伺っていたんですけども、私は水のフォルムという団体のほかに、任意団体でお母さん方が子供たちを1泊2日で、動物園に連れていく、知育体験をさせるという団体を率いていまして、そちらの方で、もともと参加者だった方が運営側に入ってくるみたいな機会がありました。

その時に、運営側に入ってきて実際に業務というか、いろんな活動の下支えをする立場になっていくという、その転換をどう支えてきたかというところが、似ているのかなと思いつながり聞いていました。

まず、興味があるから参加者になって、その後、さらにその中に入ってくるということは、再度もっと何か自分で得たいものがあるってところで、そういった運営側に入ってくる意識のある、意識の高い方ってということなんですけども、ただ、入ってきたところで、「あなたこれやってね」とボンといきなり仕事を任せると、それは負担が重くなってしまう。

そのため、スタッフをやっている姿をまず見ていただいて、活動をどういうふうに支えているのかっていうのをともに経験していただくようなことを多分1年ちょっとぐらいかけて、全体を学ぶというか、雰囲気を感じていただくようなことをやっていたんですね。

その中で、例えば「ちょっとこの業務、誰か得意な人いない？」と声をかけた時に、「私、それだったら少し手伝えるよ」みたいなところから、最初少しお手伝いいただいて、ただ、それをしていただいているからといって、全部丸投げしてほしいということではなくて、みんなで併走しながら「こうした方が良いかな」っていう意見を重ねながら、彼女を育てていくみたいな期間が大分あったような気がするんですね。

その中で彼女が、自分はこれを私の仕事としてやるんじゃないけれど、何かその意識の芽生えというか、その期間みんなでも歩めたというか、それがあって、今は彼女が主となって、何かあったときに自分から発言して、「みんなはどう？」って意見を振れるような立場になってきたような成長というか、そういった状況にはなっています。

そういったことが見えてきて、私は、水のフォーラムという団体でもNPOをしているんですけども、そちらの方でも似たようなことがありました。

下支えをしている人間たちが緩みを持って、「この仕事、ちょっと誰も手が回らないから入らないかな」って思っているところに、ずっと入ってきてくれる人がいるんですけど、最初からそこはやっぱり投げうって全部任せるんじゃなくて、気づいたらその人がそこを支える人になっているという、全体の支え合いみたいなところがあっての個人が成長していくみたいな。

うまくまとめられないんですけども、自主性を重んじながら、その人の得意を見つけてもらって、そこで生きるような自分を発見してもらうような時間があると、団体としての成長というか、団体全体のスタッフの厚みが増していくようなそんな経験をしました。

○篠崎委員長

貴重なお話ありがとうございました。

他の方はいかがでしょうか。多分、会社とかとちょっと違うところは、みんな興味があって、好きでやっているってところから始まって、他の後から参加する方もそういう

気持ちが同じで、だからこそ、あんまりシステムチックに募集とか、人を育てるっていうことをやらない方が良いのかなとも思いつつ、今お話しがあった、自然に全体と個人がお互いの様子を見ながら、うまくはまるようにして、なおかつそれがうまく回っていくのが良いのかなと思う反面、ある程度システムチックにやっていくところも無いと、団体としての活動が長く継続していかないのではないかという気もします。

なにかそういう教育制度というところちょっと強すぎるんですけども、システムチック、あるいはメンターみたいな、人をつくるかとかそんなことをやってらっしゃる団体さんっていらっしゃるのでしょうか。

それぞれの団体で、自然に様子を見ながらということが多いんでしょうかね。俗人的なもので人を育てていく、引き入れていくという感じでしょうかね。

そのちょっとしたコツ集みたいなのがそれぞれ皆さんのところで作っていたり、そういう何かヒント集みたいなの、システムチックにこうしなさい、こうするといいですよみたいなのはできると思うんですけど、ヒント集みたいなの、あるいは、こんなことがあったよ集みたいなのって、この委員会でもし機会があって作れたりすると面白いのかなと思っ

ていたりします。もし機会があったら、他のグループの会議とかイベントとかにちょっと横から参加してみ、「ここはこんなうまいことやっているんだ」みたいな発見する回みたいなの、ちょっとこの委員会とは、また別に時間を取っていただかないといけないかもしれませんが、あるいは1回ぐらい委員会の中でそういうお宅訪問、他の団体訪問みたいなのをやっても良いのかなと思っ

ていたりします。どうしてもこういう会議をしていると、非常に貴重な御意見伺えるのですごく良いのですが、現場もちょっと見てみたいなのという気持ちもあります。結構、他の団体を見てみると、「こんな違いもあるんだ」とか、「それはお互い似てるな」とかあったりするので、そういうことをもしできたら良いかなと今お話を伺って思っております。

このテーマの①、②については、何となく皆さん工夫しつつも、システムチックじゃないけど、すごく丁寧に気を配ってやっているのかなという印象を持ちました。

○濱中委員

ちょっとこの会議そのものなんですけども、なかなかお話に入っていけないなと思っ

ています。1つは、市民活動と言っても、様々な業種があると思うので、それを一気に同じ上台の上に乗っけても、議論にならないんじゃないの？と思っ

例えば、業種が変われば参加する年齢とか属性とか逆にセグメントが変わってくるはずだと思っているんです。そこを整理しないで、一気に土俵の上で戦っても、なかなか厳しいだろうというのと、僕自身もそうなんですけど、市民活動をしていく上でジェネレーションギャップというか、今、人生100年時代になった中で、一つ60の壁っていうのがあると思うんですね。

例えば60歳、今までは年金が60歳で出ていたから、そこが終わったら市民活動っていうか、ボランティア活動しているっていうのがあったんですけども、今は65歳ですから、その5年間のギャップがある世代、時期なんですね。

そうすると僕もお寺の方でそうなんですけども、「草刈りをこの日にこの時間だ」って言われるんですけど、どうしてもできないんですよ。でも草刈りだったら、僕の自由な時間、空いている明るい時にやれば出来るじゃんっていう感じで見てるんで、活動と活動の仕方、この辺のギャップが出てきているんじゃないかと思います。

これは特にライフスタイル、働き方も多分変わってきているんですけど、従来より10年、20年余計に働かなくてはいけなくなりました。そうすると、どういう働き方をするのか、例えば子育ての時というのは、もうお金のために頑張んなきゃいけないんだろうという働き方と、例えば僕みたいにもう50歳を過ぎて、もうじき引退だよっていう働き方だと変わってくる。当然余暇の時間の過ごし方も変わってくると思います。

そういうところをうまくターゲットを絞っていかないと、なかなか市民活動って言われても、基本的には60歳年金支給型社会で動いていれば、今の団体さんっておそらく半分くらい潰れちゃうんじゃないの？と実は僕は思っているところです。

だからそのところで、ターゲットなりセグメントなりをちゃんと整理していかないと、今後、市民活動っていうのは厳しいだろうと思っているところです。確かに頑張っている団体さんもいらっしゃるから、そこに学ぶのも良いかもしれない。

今後の土台となるベースの人口というか、そこも抑えて進めていった方が良いんじゃないかなと思います。

○篠崎委員長

貴重な御意見ありがとうございます。

今のセグメントの話、わからない部分もありましたので、もう少し詳しくお話いただければと思います。

○濱中委員

セグメントのベースになる働き方が変わってくる。例えば、4～5年前にライフシフトっていう本が爆発的に売れました。これは、人生80年時代になったものが、100年時代になっていく。そうすると、人生設計も変わってくるという本が売れていました。

僕も読んで、放送大学のゼミをやったんですけども、結構60歳以上の方は、一生懸命来て、皆さん非常に市民活動されていたっていうのは、記憶があるんですけども、やっぱり働き方が変わってくる、忙しくて市民活動できませんよっていう時代が、多分従来より長くなっちゃってると思うんですね。

今、70歳定年っていうのも聞こえてきているので、70歳以降の年代の方を狙っていかなくちゃいけない。今までは60歳の方でも、今後は多分65歳以降の方というのを狙っていくんでしょうが、そういう年齢が若干高くなっています。

子供さんの場合は、多分変わらないと思うんですけども、ただ、この子供についても、親が年を重ねてきちゃると、5年余計になるものっていうものを加味しながらとなると、お声掛け年齢を上げていくというような、5年で良いかどうかかわからないですけど、そういうことをやっていかないといけないんじゃないかなと思っています。

僕も田舎なので、「みんな60歳になったら自治会長になって」とか、「お寺の役員になって」なんて言われて、「ちょっと待ってくれよ」と。「まだあなたと違って、年金もらえないんだよ」と言って、5年先延ばしにしているんですけども、人生長くなったっていうところを加味して、声をかけてかなきゃいけない、そして活動を考えていかなくちゃいけないということがあるような気がしています。

○篠崎委員長

今までよりも、もう少し上のターゲットを狙っていく必要があるんじゃないかというお話でした。

○濱中委員

ターゲットが高くなっちゃうと思うんですね。

○篠崎委員長

特に運営する方ということですよ。まさにその通りでございます。

○大木委員

今の濱中さんのお話にちょっと乗るところもあって、確認させていただきたかったんで

すけど、今回、世代を超えてということがテーマになっていると思うんですけども、なぜこのテーマをこのタイミングで選ばれたのかっていうのは、どういった意図があったのかを私自身把握できてなくて、改めて御説明いただいてもよろしいでしょうか。

○事務局

年度当初の諮問で、世代に関係なくという諮問が出ていまして、そこに対して今までワークショップをしていたところですけれども、今までワークショップの中で、世代を広げるためのアイデアみたいのを委員の皆様ワークショップに出していただいたんですが、答申を書く上で、さらにそこをちょっと拡充したいなっていうところがありまして、今回このテーマに設定させていただいたところです。

○大木委員

ありがとうございます。

濱中さんもおっしゃっていた通り、かなり市民団体っていう枠組みの幅が広いと思うので、例えばさいたま市の何かをテーマに取り上げている団体さんもあれば、そばっていうテーマで、さいたま市でやっているけれども、阿部さんも先ほどからおっしゃっている日本の文化、日本っていうテーマとして、そこをテーマに挙げられている方もいらっしゃって、幅が広いと思います。

私もスポーツは、さいたま市に場所があるだけで、別にさいたま市だけでなく、今それこそ岐阜県のレクリエーション協会さんといういろいろやろうとしていたりとかするので、あまり地域は関係無いんですよ、テーマでは絞っていますけど。

なので、市民団体を扱う時の中で、その活動の内容のテーマとかによって、結構そこら辺がまさに濱中さんのおっしゃった通り幅が広いので、そこをちょっと「もう少し各々そういったものはあるけれども、今回はこの理由があるので、こういうふうに絞って話してください」みたいな、もう少し説明があった方が、私の理解がちょっと追いついていないので申し訳無いんですけども、もうちょっと丁寧にそこら辺の趣旨とかを説明いただいてから議論とか、あとは資料の段階で、もう少し説明があった方が皆さん話しやすいのかなというふうことをちょっと印象として思いましたので、発言させていただきました。

やっぱり市民活動って、前回の話し合いでもあったと思うんですけども、皆さん「幅広いよね」っていうところで、テーマが落ち切らないっていうケースがすごい多かったので、その中で「世代間ってあまり関係無いよね」という意見がありました。

今回の質問でも、世代を広げる活動に関係無い団体さんは③を考えてくださいみたいに

書いてあったと思うんですけど、結構皆さんあんまり世代を超えようとして活動されている方は、そんなに多くは無いと私は思っております、そうするとちょっと難しいと思ったので発言させていただきました。

○濱中委員

世代を超えてっていうテーマが非常に難しいと思うんです。

すでに核家族が進んじゃっている中で、マンションの100世帯でかつ、核家族の中でどうやって世代を超えるの？とか議論になったときに、僕なんかは、「いやいや日本も捨てたもんじゃありませんよ。サザエさん見てくださいよ。丸テーブルに親子三代座ってご飯食べてるじゃない。これが本来の日本の姿なんだよ」という話を良くするんですね、古い人間関係ですけれども。

みんなそういったサザエさんとかは御存じで、テーブルで食事している姿を思い浮かべてくれるんですけども、でもよく見たら、そのおかずがコロッケだったり、高齢者には高カロリーなおかずが並んでいるわけです。

これは世代が集まっているけど、交流出来ないよなど。よくこれ教育論の話になっちゃうんですけども、「食事っていう共同のところで3代が集まって、御飯を食べながらおじいちゃんから孫へ、子供へ社会勉強させる道德の時間なんだよ」という言い方をしているんですけども、この世代を実際に超えていけって言われたら、かなり無理があるような気がするんです。

例えば今の日本の核家族の人数だとか、例えば同居の人数だとか、それは地方に行けば多いかもしれないんですけども、例えば家の中で晩飯だけ一緒に食べているとか、そういう実態が「本当にさいたま市のここで出来るの？」、「マンションが多いところで出来るの？」というふうなことを非常に感じてしまうんですね。

ですから、その裏付けになるある程度のデータが無いと多分この議論って、世代を超えてっていうテーマは、ちょっと難しい気がしたので発言させていただきました。

○篠崎委員長

ありがとうございました。私も最もだと思います。少し説明が足りないところがあったと思います。

私がこの委員会に参加させていただいて、今回の諮問を見て、その時思ったことを少し述べさせていただこうと思っています。

というのは、もちろんいろんな団体があって、いろんな活動をして、いろんな経緯があ

るという、すごくいろんなところがあって、それは素晴らしいと思うんですけども、だからこそ、じゃあそれを綺麗に分類して、整理して、こういうグループにはこういう話をしているということは、もちろんあると思うんです。

ただ、もしかしてそうすることによって、解決出来ることって本当にあるのかなってというのが私の個人的な感覚なんです。さっきヒント集みたいなのを言いましたけど、何かすごく理論的にすべてを整理して、こうしたらそれはもちろん一つの枠組みになって、もっと幅広い活動を対象にした議論になると思うんですけど、理路整然とすること自体が多分皆さんの市民活動の面白さとか活力とかそういうことと、実はそんなにマッチしないんじゃないかっていう気がしているんです。

なので、すごく具体的でわかりやすく、身近なちょっとしたことみたいなところが積み重なっていくとか、そういうのをうまくこの委員会の中で拾い上げて、それを「こんなこともあるんだよね」というのを皆さん、この委員会の中でもそうですし、答申を通して、いろんな人に伝えることが出来れば良いなと思っています。

ということで、大木さん、濱中さんのおっしゃった通り、すごくそういうきちとしたこともやった方が良いなと思うんですけども、そうじゃないやり方もあるんじゃないかと思っていて、あえてこういうすごくふわっとした議論をやってきたぞっていう、私の個人的な想いがございます。

あともう一つ、世代の話で言うと、超える必要はもちろん無いと思うんですが、一方でやっぱり世代が偏っているということは否定出来ないと思うんです。

やっぱり市民活動っていった場合に、もちろん出来る人がやれば良いんだというのが基本にあると思うんですけども、「でもなんでそんなにじゃあ偏っているの？」っていう、もしかしたらそれは、濱中さんのお話しにあった通り、もうみんなしゃかりきになって働かなきゃいけないから、そんなことをやっている暇が無いぞっていうことなのかもしれません。

でも一方で、「じゃあそれで良いの？」みたいな、さっきワークライフバランスの話は何人かの方がされていましたが、働くことは非常に大事なんですけども、もう少しいろんな生き方というか、生きる上での構成するべきことっていうのがあるとなれば、多くの人がそういうところに参加できるようなあり方、市民活動のあり方みたいなことも必要なのではないかということで、元気な高齢者も増えていますし、一方で定年が延長していて、それまでは出来ないとかいろんな社会問題ですね。

あと単身者、単身者だって高齢者も若い人も増えて、結婚して子供いないぞという社会的な変化も背景にあるんだけども、だからこそ何かいろんな人がうまく入れるというか、

ライフコースも一直線もじゃなくなっているという話だったと思うのですが、いろんな人がいろんなライフコース、ライフスタイルをたどっていく中で、何かちょっとしたきっかけで、自分が興味を持てるような活動に参加できるような、何か皆さんそういうことをされていると思うんですけども、そういった活動がもうちょっといろんな人に伝わると良いと思いますし、団体同士でもまだまだこういうやり方があるんだというのが規模の大小、年数、内容を越えて何かあるのではないかというふうに私は考えて、こういうような運営をして参りました。

でも一方で皆さんの中で、やっぱりもうちょっと明確に議論のターゲットを決めたほうが良いんじゃないかという方々もいらっしゃるかと思います。そういう話なんかをもう少し伺って、議論の進め方を修正しなければいけないということならば、していったほうが良いかなと考えています。

今日まではこういうことをちゃんとお話ししなかったんですけど、そんなことを考えて運営をして参りました。やっぱりもうちょっとわかりやすい方が良いんじゃないかなという御意見、収束した議論にした方が良いんじゃないかっていう御意見があれば、それを伺いたいと思いますがいかがでしょうか。

鈴木先生、御自身の活動のことでも構いませんので、コメントがあれば伺えればと思います。

○鈴木委員

今年度から参加させていただいています。前2回はワークショップという形でいろいろな方に自由な御意見をいただいて、今日は一旦整理しようということだと思います。こういう機会も良いと思います。

いろいろなお立場の方がいらっしゃいますが、そもそもこの委員会は市民活動推進委員会ということで、さいたま市においていろいろな活動をやっている方に御参集いただいて、それぞれの内容紹介なり、課題のシェア、展望のシェアをすることによって、どうやって市民活動をより推進するかというのが命題だと思いますので、その点からみれば決して外れた議論ではないと思います。

世代を超えた活動がひとつのテーマになっていますけども、どのような活動であるにしろ、持続していくためには世代交代、新しい人が入ってこないといけないので、大変重要なことかなと思います。

同じ人がずっとやっていると10年すればみんな10年歳をとりますから、新しい人をどうやって勧誘し、興味を持って参加してもらうかということが、世代の幅を広げるために大

切と思います。

私自身はNPOに3つ関わっています。

ひとつは、粋なまちづくり倶楽部という神楽坂を中心としたまちづくり活動です。

私は副理事長という立場ですが、そこで思うのは、20年ぐらいやっているので、外の人から見ると、「あの人たちはすごいんだ」みたいに見えるのかなとか。そういうふうになると敷居が高くなってしまいうんですね。なので、心して敷居を下げて、いろんな人に入っただけやすいようなきっかけとか環境を作るとははかかなり意識してやらないと、「あの人がやっています」、「私たちとはちょっと違うんだ」のように思われないようにしなければいけないと思います。

もうひとつは全国組織で、都市計画関係の集まりの日本都市計画家協会があります。そこも全体的な年齢が上がってきて、若手に積極的に声をかけ勧誘し、若手に任せるという企画がいくつかありました。そうやると、上の人に萎縮しないでやれるので、任せるということが必要かと思います。

あとは達成感のシェア、「みんなでこれやってよかったね」、「楽しかった」、「参加して良かった」という機会が時々必要です。1年に1回とか3ヶ月に1回とかでよいので、ただやらしているとメリハリがつかないので、そういう機会を作るとするのは、モチベーションになると思います。

最後に、皆様方そうだと思いますが、御自身が楽しいと思われていると思いますし、やってらっしゃることが、社会に役立っていると思われていると思うんですね。

そこがすごく大事なところですよ。日本では労働力不足といろいろなところがありますよね。私は建築や都市計画などに携わっていますが、建設会社の話を聞くと、本当に現場は人がいないということです。そうすると労働力として長く活躍して欲しいという要望が多くあります。だから女性も高齢者も、長く働いて欲しいという要望が高くなっていると思います。これから労働力不足はより深刻化し、そうすると、ゆとりを市民活動に振り向ける時間が無くなってくることが懸念されます。

その中で、自分でコントロール出来る部分は良いですが、日本の国際的立場、社会の方向性といった問題があります。働いてほしい、収入も必要である、そこで市民活動もしなきゃとなると、本当に忙しい人が増えていくような気がします。そこでどんな社会を私たちは望み、どんな社会を私達は築いていったら良いのだろうか、或いは築きたいのだろうか。大きな話ですけど、その状況下でその市民活動というのは、どのような形でやっていけるのだろうかという、大きな展望みたいなものをどこかの機会で語るというのも良いのかと思います。

○篠崎委員長

市民活動をどう考えていくのかというのは、多分この委員会の中では、無限に時間がかかってしまうので、少ししか触れられないかもしれませんが、また委員会と別の機会に開催して、お話ができればと考えております。

○鈴木委員

そういう中で皆さんやってらっしゃるから本当に偉いと思います。御苦労さまだなと本当に思っております。

○篠崎委員長

今までのお話の中で、ちゃんとターゲットを絞るか、はっきりした方が良いか、曖昧な話でふわっとした話にするかは、一旦置いておきまして、今日挙がっているテーマの中で、お話を聞いていると、①、②の話って、③の話とほとんど地続きの話なのかなと思っております。

当初の予定では、最初①、②の話をさせていただいて、ちょっと中休みを挟んで、③のお話みたいに考えていたんですけども、ものが地続きなので、連続してやっちゃっても良いかなと思っております。

委員会の時間も限られてるので、お話を引き続き伺えればと思っております。

まだ今日お話ししていない方から、もう1回なにか話してみたい、あるいは、もうちょっとこの方に質問してみたいというところがあればと思って、特に今御紹介いただいた、いろんなお話がありますので、そこをもうちょっと聞きたいということもあつたりするんじゃないかなと思います。

少し皆さんのやりとりみたいのが生まれると良いのかなと思っておりますので、そういうのも含めて、何かコメントのある方はいらっしゃいますか。

では、堀川さんお願いします。

○堀川委員

皆さんのお話を伺いながら、もうちょっと聞きたいなと思ったところがありまして、山形さんがさっきおっしゃっていた、スタッフを見てもらうというか、いきなり任せるのではなくて、その前の段階で見てもらうという話があつたかと思うんですけど、何かそれが今日、先ほどあつたメンターに近いのかなと思いました。

いきなり任せる前に、どういうものなのかをまず雰囲気も含めて知ってもらおうというところかなと思ったんですけど、見てもらうといっても、いろんなレベルがあると思ったので、そのあたりを教えていただいてもよろしいですか。

○山形委員

活動自体は1年間の中で、夏休みに子供たちを動物園に1泊2日で連れていくんですけども、そのために、1月ぐらいから集まり始めて、誰がどの仕事を分担していくかっていうところをまず割り振りをしていきます。

そういったところにまず来ていただいて、そういった仕事があるということをもっと把握していただいて、その中のどこかに参加していただくような仕組みを作るという風にやっているんですね。

その中で参加したところで、それを丸投げするというのではなくて、その中のちょっとしたお手伝いを一緒に参加していただいて、その中で彼女自身が出来ること、自分が得意だということがどこか参加する中で気づいてくださる機会があると思うんですね。

その時に「ちょっと何かできる？」ってお伺いして、そこで「これだったら出来るかもしれない」というところを、まず一緒に併走していくみたいな形で、ともにそのことを進めていくということをしていく中で、だんだん彼女自身が、「自分でも出来る」という自信がついてくると思いますので、そこからはちょっと一歩引いてという形で、彼女自身がひとり立ちできるような流れを組んでいるという形です。

それを1年半ぐらいかけて今回やってきて、もう他の人があれこれ言わなくても、彼女が自ら動いて行動出来るんじゃないかなと成長したように私は感じているところです。

○堀川委員

ありがとうございます。非常に参考になりました。

○篠崎委員長

ここでちょっと違う話を出すと時間的に難しいかもしれませんが、比較的上手くいっているみたいなお話が多かったと思います。ちょっとうまくいかないこともあった、あるいは、難題があったけど乗り越えたみたいなお話があまり出てこなかったかなと思います。

こういうところで言いづらいのかもしれませんが、少しそういうのがあったときにこういう工夫で何とかあったというようなお話があれば、さっき阿部さんのところでも少しお話がありましたけども、そういったお話があれば伺ってもよろしいでしょうか。

○岡委員

失敗ということについては、今すぐ出てこないのですが、今日のお話でということ、私は世代を広げるためにというのではないので、③をテーマに考えていました。

今日の話で、分析をしてターゲットをセグメンテーションしてというお話をするのか、その全体としてというお話をするのかみたいなこともありましたけれども、実際に今、参加が少ない世代を増やしたいっていう目的で考えたとしたら、そういった人たちが入っていただくためには、ターゲットを絞るっていうことがやっぱり一番大切なのかなと思っています。

去年の委員にいらっしゃった方が、「NPOも3つに分けられるよね」という話をされていたんですけども、趣味の延長にあるもの、ボランティア活動のもの、事業活動のものというふうに、それぐらいには確かに大別出来るのかなと思うんですけども、そういう意味でもそんなに細かくセグメントするということではなく、やはり若い世代の方々と、やっぱり引退、リタイアされた方々と市民活動に参加される意図とかその目的ってかなり大きく違うと思うので、その辺をやっぱり考えて議論をしていった方が良いのかなと感じました。

○篠崎委員長

前回までは、比較的全体の話というのがやっぱり多かったと思うんですね。今日それでもう1回見返してという回ですけども、多分この後はもう少し具体性のある話を確かにしたほうが良いかなというふうには思っていて、みんな「こういうのがあるよね、ああいうのがあるよね」というような回はもう多分そんなにしないという気がしています。

もちろん皆さんや事務局とも御相談しなきゃいけないと思うのですが、次の回からもう少し、テーマっていうのがクリアな回になっていくというふうには思っています。

みんなでいろんな意見をフリーに出していくみたいなものを中心にする委員会っていうのは、多分今回で一つ区切って、年度のちょうど真ん中も過ぎたところですし、連続はしているんだけど、少し違う話で焦点をいくつか選んで絞っていったという話が出てくるのかなと思っています。

○山形委員

失敗談みたいなものを少し申し上げても良いですか。

失敗談というか、うちのNPOの水のフォーラムの団体が20年超えで今活動しているんです

けれども、その中で私が10年以上前に入った時に、1回世代交代をするための手順という
か、それを代表が頑張っていて、次の世代を育てようとしていたタイミングで入りました。

ただ、その時に1回失敗して、その後、私が入って7年ぐらいの時も1回失敗して、今
回にいたる3回ぐらい世代交代を試みてはいるんですが、そこで失敗した理由が何となく
今、皆さんのお話を聞きながら思ったことがあります。

NPOなので理念の共有はものすごく大事で、それを引き継いでいくっていうことは、前
提として絶対だとは思っているんですけども、活動の方向性とか、活動が少しずつ変化し
ていくというところを認めずに、今のあり方を押し付けるみたいな、「こう引き継ぎなさい」
的なことをやった時に、やっぱりそこを離れていくっていう、その次を次世代に引き
継ぎたいと思って頑張っていた人たちの心がちょっとついていけなくなってしまうという
ようなことが見受けられました。

今回、そこが大分良くなったかなというところで、うちの団体も引き継ぎがちょっと見
えてきた、展望が見えてきたなっていう状況があります。

立ち上げた人たちの想いってものすごいので、やっぱり「そこを何とか引き継いで欲し
い」と思う気持ちはわかるんですけども、やはり新しい世代の新しい考え方というの
も、ある程度認めながら変化をしていくというところが、私は必要なんじゃないかなと思
っております。

○篠崎委員長

ありがとうございました。伝統と革新というようなお話を伺いました。

大体予定時刻になりました。もし、今日まだ発言し足りないことがある方がいらっしゃ
れば、最後に御発言いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

○平野委員

いろいろ皆さんのお話を聞かせていただいて、感想なんですけれども、僕たちの団体は
すごく特殊かなっていう感じがしています。

そもそも活動そのもののきっかけっていうのは、テレビ番組からのオファーがあって、
本業の仲間で自分たちの本業をPRしたいっていうのがスタートで、テレビの企画に参加
したっていうところがあります。その後もちょっとオファーがあつたりしたので、活動を
一旦どうしようかっていう話があつたんですけども、続けていったら良いんじゃないか
っていう中で、現在に至っています。

一つちょっと特殊かなっていうのは、僕たちピタゴラスイッチっていう装置の大型版み

たいなのをみんなで作ってしまって、そもそも物を作るものづくりっていうところがあるので、そういう経験があるようなメンバーの集まりになっちゃっているというところと、あとピタゴラススイッチのアイデアを出すっていうのがすごくやっぱり特殊でして、アイデアが出ないとつukれないものです。

今のメンバーで何だかんだ20年ぐらいやらせてもらっているんですけども、すごくやっぱり特殊な感じがしています。もう20年ぐらい走ってきましたので、みんな年も取ってきて、今後世代交代って言った時に、同じようなことができるかというところと、やっぱりそこは全く同じというのは多分正直難しいと思います。

そう考えたときに、団体はもう今のメンバーだけで辞めてしまうのか、もしくは先ほどの話にもあったように、やり方を変えるという形で、やりたいっていう人たちにつないでいってもらおうかっていうところをいつかどこかで考えていかなくちやいけないときも来るのかなというふうには考えております。

○谷崎委員

事前にいただいた資料を記入しようと思ったんですけども、今私たちがしていることから、意見が書けなくて、実は今日は空欄で持ってきたんですね。

私どもはそんなに世代交代、世代を広げようということをまだ今の時点で考えていなかったものですから、そのテーマに絞っての意見っていうのはちょっと書けませんでした。

ただ、皆さんのお話を聞いていて、そして先ほど、失敗談の中に今までのあり方を押し付けなくて、新しい世代のニーズに合わせるというか、それに合わせていくことが大事だっているところが、よく理解ができたので、すべての市民活動が、必ずしも世代交代をしていくことを望んでいるわけでもないっていうこともあるということは、皆さんに知っていただきたいかなと思いました。

○篠崎委員長

団体をどう継いでいくか、継いでいかないかみたいなことも千差万別という御意見でした。

これで終了にさせていただきたいと思います。それでは議事がすべて終了しましたので、その他のことについて、事務局から御連絡お願いします。

3 その他

○事務局

《事務連絡》

4 閉会

○篠崎委員長

委員の皆様から何か御連絡事項等ございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいですか。

では今日すべて終了しました。どうもありがとうございました。また次回以降もよろしくお願いいたします。